

**FUKUSHIMA
市民
インタビュー**

観光客の皆さんに喜んでいただくために

ふくしま花案内人

加藤 秀雄 さんに聞きました！

🍷 始めたきっかけは？

もともと、野鳥のさえずりや野の花、高山植物など自然と触れ合うことが好きでした。自宅のある南向台から花見山の頂上に抜ける道を散歩していたときに、黄色いジャンパーを着た案内人が観光客に説明をしている所に出会いました。私も質問すると、とても親切に花の名前や特徴、ビュースポットなどを教えてくれました。その時の印象が忘れられず、花案内人養成講座を受講し、平成23年から活動を始めました。

🍷 活動内容は？

花のシーズンには、花見山での案内のほか、JR福島駅



ふくしま花案内人
加藤 秀雄さん

見えになるので、話の中で出身地を聞いて、その地の話をするとお客さんがとても喜んでくれるんですね。皆さんと何気ない話がとても重要です。駅に戻られた観光客の方から「また来るよ」や「よかったよ」などと声を掛けていただいているのがとてもうれい

🍷 活動のやりがいとは？

私は、転勤族で全国各地に赴任して参りました。いろいろな所から観光客が福島にお

の東口観光案内所前で、福島を訪れた観光客の皆さんからの質問や相談を受け付けています。また、各地の花観光スポットや市の魅力の他にも、トイレやバス乗り場など、駅周辺の施設の案内に応じられるようにしています。



▲花見山で冬季に咲く十月桜を案内する加藤さん

🍷 これからの活動は？

2月には、仙台駅と山形駅で花見山や福島市のPRをしてきました。また花見山のシーズンには、昨年好評だったまち歩き案内を実施します。今年も連続テレビ小説「エール」も放映されるので、古閑裕而さんのゆかりの場所やきれいな花が見られる県庁周辺をコースに取り入れて案内します。福島の花やまちを満喫してお帰りいただきたいと考えています。

私がやりがいを持って、活動できるのは、花見山公園の園主の阿部さんや地域の方々、花案内人の先輩や仲間を支えられているからです。その感謝の気持ちを大切にしながら、福島を訪れる観光客の皆さんに喜んでいただけるよう、これからも案内を続けていきたいと思



We Love ♡ ふくしま！
第24回『花に包まれたまち』

もうすぐ9回目の3.11。毎年この時期になると、大震災・原発事故に関する報道にさまざまな思いが去来します。そして、「花は咲く」が流れ、呼び起こされる祈る気持ち。

花は、美しくはかないものの例えにされることが多いですが、災害で荒れ果てた土地にも可憐に咲いている姿を見ると、むしろたくましく生命力あふれるものに思えます。この曲に歌われる花も、生きる力の象徴として描かれているのではないのでしょうか。

福島市にもウメが咲き、下旬からは、冬を耐え抜いた(今冬は異例の暖冬でしたが)花々が一斉に咲き始めるでしょう。サクラ、レンギョウ、モクレン、ハナモモ…色とりどりの花々が咲き乱れる花見山公園の様子は、息をのむ美しさ。生命を謳歌しているように感じます。

花見山公園以外にも、飯野の花やしき公園、飯坂の花ももの里・花桃の公園、平石の花咲山、大森の城山、松川の右輪台榎並木やクマガイソウの里など、福島市には花の名所と称されるものが多々あります。

そして、チャレンジガーデンとして市民が四季折々の花などで庭づくりをし、道行く人の目を楽しませてくれます。

花は「美・湧・満・彩 福島市」の最高の魅力の一つです。今後、これらを観光資源「ふくしま花回廊」として売り込み、守り育てる。さらに、市民の皆さんに協力いただいて、道沿いに満たし、歩いて美しい庭園都市にする。まちには、古閑裕而さんの音楽が流れるなど、文化の香りが漂う都市にする。そんな夢を追いかけていきたいと思

経済的な再生だけでなく、心の豊かさを伴ってこそ、真の復興は成し遂げられます。年を重ねるごとに、花に包まれ、都市の生命力と心の潤いを豊かにしていきたいものです。

福島市長 **木幡 浩**